

寺子屋だより

※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言 季節と日本の心…………… 山口 秀範
- 3 教育雑感⑬…………… 白濱 裕
- 4 偉人レポート…………… 小西 稜
- 6 橋を架ける⑩…………… 占部 賢志
- 8 幸せな犬の住む国、インド…………… 水崎 之子
- 9 鳥飼八幡宮―ゆかりの名士たち(第八回) 神功皇后さま③…………… 山内 圭司
- 10 TERAKOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のころ(14) 編集余録



吉田松陰・金子重輔銅像

碑のころ 吉田松陰先生誕生の地

萩市大字椿東 ちんとう

※詳しい解説は12頁に掲載しています。

季節と日本の心

代表世話役 山口秀範

季節外れの彼岸花

年々日本の気候が亜熱帯化していると気懸りな中で、今年の夏の酷暑は格別でした。その上いつまでも秋の兆しは感じられず、「暑さ寒さも彼岸まで」を無視して度々夏に逆戻りしました。極めつけは、秋分の日を訪れを告げる彼岸花（曼殊沙華）が今年はその時期になっても全く開花しなかったことです。

これまで様々な異常気象に遭っても、必ず九月半ば過ぎに蕾をつけてきたのに、遂にこの秋は緻密な「開花時計」が狂ってしまったようです。十月に入つてコスモスの隣で咲き競う彼岸花を眺めつつ、千年の年月をかけて培ってきた日本人の季節感が変質するという危機感に苛まれました。

秋の歌

秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる（藤原敏行）

『古今集』所載の名歌で、いつの間にか訪れた秋の兆しを逃さず捉える感受性から生まれました。

ゆく秋の 大和の国の 薬師寺の 塔の上なる 一ひらの雲（佐々木信綱）

晩秋の大和路を旅する明治の歌人は、三重塔の上に浮かぶ一片の雲に季節の移ろいを見たのでしょ。

白玉の 齒にしみとおる 秋の夜の 酒はしづかに 飲むべかりけり（若山牧水）

肌寒く空気が澄み切った秋の夜に、旨酒を味わう至極の時が静かに流れていく。大好きな歌の一つです。

このように、季節の移ろいが日本の心を培い、自然観も形作つて来たのです。

季節が育むもの

南北に長い日本列島の各地は太古から自然の与える試練を甘受してきました。北国の冬は滅法厳しいし、台風も地震も頻繁に襲います。アフリカ勤務中ある年の梅雨時に国内へ出張したのですが、その蒸し暑さに辟易して早くナイジェリアへ戻りたいと願ったものです。

一方カリフォルニアでは一年中冷暖房をほとんど必要としません。しかしその快適な環境下で数年過ごすとは、すべての経験が何年のいつ頃だったのか定かでないとなると多くの住人が味気なさを託ちます。

「季節」こそが人の心の襞を生み、情緒を育ててくれる秘密のようです。毎年四つも季節を持つ我々は、冬の寒さを耐えるうちにやがて春が訪れ、夏の暑さを凌ぐうちにいつの間にか秋めくことを、悠久の時の中で言わばDNAに刻んできた民族なのです。

四季が民族の感受性を育んだとすれば、昨今の異変はとて心配です。前出の如き繊細な歌は今後も生まれるのでしょうか。

同胞感

異常気候以外にも気になることがあります。親が我が子の事だけにしか関心を持たないという現象です。以前剣道教室の講師を務める方から「団体戦に出場する自分の子供の試合だけに夢中で、他のチーム

メイトの対戦は応援もしない親がいる」と伺ったことがあります。似たような例は散見され、「息子の特技を称賛していた友だちが最近興味を持たなくなった。それが故で不登校になりそうと何とかしてほしい」。三人仲良くバスで通っているのに、親の都合で二人だけ迎える車で連れて帰る」などなどです。

同じクラスの友人たちは最も身近な存在です。時には煩わしいことも起こるが、我が子と他とを区別せず共に成長を願う気持ち、親たちに是非とも持つて欲しいのです。

そんな折から、アメリカ大リーグで活躍中のダルビッシュ有投手の談話が目に止りました。対ドジャース戦で好投したにも拘わらずチームは破れて今シーズンを終えた、言わば無念のインタビュの一部です。

「相手の山本との投げ合いは日本人として誇らしい。「まあ、そこは自分分らないが、ドジャースが山本君を選んで信頼したのは感動しましたし、山本君がいいピッチングで活躍したのは嬉しい」

「対大谷は抑えた。」
「自分に気を遣っている部分があると思うので（笑）。自分がいろいろ考えていたやり方はうまく出せて良かった」

それぞれ自分の力を恃んで異国で対決している同士が、然も相手チームの同胞を内心で称え合っていることがにじみ出ています。

自分が可愛い、身内が大事だと誰もが思います。それを否定するのではなく、「仲間」の枠をどんどん広げて行き、祖先と歴史と言葉を共有する同胞感を自覚できる子供たちを育てたいものです。